



J・A・C
(第 12 号)

千葉支部だより

発行者 篠崎仁
編集者 結城純一

那須岳と三斗小屋温泉



期間 : 2010 年 9 月 11 日 (土) ~ 12 日

参加者 : 岩尾富士夫 宇津木仁典 小坂橋志郎 佐藤明夫 篠崎仁 杉本正夫 諏訪吉春
高橋琢子 豊倉さと子 三木雄三 山口文嗣 結城純一 湯下正子 吉永英明 吉野聰
(以上 15 人・敬称略)

いやというほど続いた酷暑も、ようやく終わったようである。それにしても、ほんとうに暑い今年の夏だった。この『支部だより』が会員や会友の皆さまの手元に届くころには、小さな秋の声も聞こえていることだろう。さて、恒例の千葉支部山行は 9 月 11、12 日の日程で那須連山の「茶臼岳」を歩いてきた。暑さの中にも「天高く馬肥ゆる…」の秋空があり、目の高さに北斗七

星の「ひしゃくぼし」がきらめく山奥の静かな三斗小屋温泉では秘湯につかり、酒を酌み交わし、楽しい一夜を過ごした。眠い目をこするとダケカンバの森に雨がきて、かつて戊辰戦争で官軍が会津に攻め込んだ流石山の大峠には濃い霧が立ちこめた。朝の山道を歩く。足下のリンドウやトリカブトの紫が、いっそう新鮮に見えた。そんな山旅を振り返ってみた。

9月11日午後0時半、定時きっかりに路線バスが那須のロープウエー駅に到着し、参加者全員の顔ぶれがそろった。乗用車で相乗り組や新幹線、在来線などを利用して各自が集合地点を目指した今回の山行。最近の山ブームや山ガールの存在も知ってはいたが、「なんでこんなに混むのだろうか」と思うほど、混雑した。結城さんの車に便乗した筆者の場合も、ロープウエー駅に近づくほど道路の混雑状況が激しくなり、「大丈夫かなあー」と心配になった。駐車場は満員御礼の状態。「空きはないか」「集合時間は大丈夫か」さらに「ほかの参加者はどうかなあー」とイライラするばかりの時間が過ぎていく。それでもどうにか集合時間の1時間前には駐車スペースを確保、「峠の焼き団子」ののぼりを掲げた茶店で昼食をとった。

「お姉さん、ずいぶん混むねえー」と店の女性に聞くと「ちょうどリンドウの花が見ごろで、それでかなあー」との事だった。

「お姉さん、美人だからお客もたくさん来るんじゃないの」と冗談を飛ばす。この女性、丼を片付ける最中だったが、思わず割り箸を落とし「あら、嫌だあー」。

高度を稼いだロープウエーを降りると、風は「秋」だった。高くなった空に赤とんぼがスーッと飛んでいた。観光客がいっぱいだ。みんな、思い思いに山の秋を楽しんでいる。その中を登る。結構な砂礫の急斜面。汗が噴き出す。やがてイオウのにおいがして鳥居が見えてくると岩だらけの道も平らになり、「南月山が見えるぞー」「あっちは会津の山だ」との声とともに茶臼岳山頂に到着した。



いで湯を目指して下りる途中、峰の茶屋跡避難小屋の手前にちょっとしたお花畑があった。リンドウがいっぱいだ。自己主張でもするかのように咲いている。紫色は「花が群がり咲く」といった語源を持つ。エゾリンドウやオヤマリンドウの咲き方を見ると「なるほどね」とうなずける。そんなリンドウを指さして「可愛い花もお姉さんたちには顔負けと見えて、青い顔をしてるねえー」。するとわが千葉支部の女性陣。「歯が浮いちゃうよ。やめてー」



ダケカンバの森に囲まれた山のいで湯、三斗小屋温泉の夜は早い。露天風呂につかり「ウーッ」と思い切り手足を伸ばす。部屋に戻ると持ち込んだウイスキーや日本酒、焼酎を酌み交わす。小板橋さんが「おいしいよ、どうぞ」と会友のみなさんに持参した「クワの実」の果実酒すすめていた。2階の角部屋。手すりのむこうは流石山が墨絵のようだ。星の光が闇を横切った。「流れた」とだれかが言った。北斗七星がきらきらときれいな静かな夜だった。

一夜明けて12日午前6時。「なんだ、このだらしのなさは…」。吉永さんの大きな声で目が覚めた。前夜の飲み会がたたり、布団の上には男性陣がまるで「マグロ」や「ト

ド」ようになって並ぶ。窓の外は雨。昨夜は見えた流石山も霧がかかっている。三本槍岳まで歩く計画を断念。鹿の湯温泉で一風呂浴びることになった。

41度から、あちあちの48度まで、お湯の温度がそれぞれに違う湯船が、いかにも湯治場らしい。せっかくだからと48度に

挑戦したものの、わずか10秒足らずでギブアップ。午後1時半、イオウの残り香とともに那須塩原駅で解散、家路についたが、「千葉でまた何人かが飲んでたってよ」という情報は、それから間もなく耳に入ってきた。それはともかく「お疲れさま」でした。
(三木 雄三)

科学博物館見学に参加して

期日 : 2010年7月13日(火) 14:00~16:00

参加者: 小沢けい子、川越尚子、篠崎仁、鈴木美代、高橋正彦、高橋琢子、豊倉さと子、矢野賢二

上野の国立博物館や美術館へは何度か訪れていたが、科学博物館は20年ぶりくらいなので、梅雨空のなか妙に新鮮な気分で参加した。科学博物館は、1930年に完成し、ネオルネサンス様式を基調とした飛行機型の建物「日本館」と新しい建物の「地球館」とでなっている。ほぼ定刻に、篠崎支部長の友人であるボランティアガイド北村晃二さんの案内で日本館から見学開始。日本列島の生き立ち・自然・地質を、楽しく軽妙な説明を聞きながら、生き物の骨や化石を見て触って肌で理解できた。「地球館」では、地球全体の歩み・進化そして科学・技術を幅広く見学した。

私は日ごろ仕事で縄文時代の土器・石器・骨・貝類に接しているが、それは数千年前のもの。日本人の祖先をたどれば4万年前、地球上の生物の誕生は46億年前と考えると縄文時代ですら何と新しい時代なのか! 生命が誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきた道のりを想い、地球のすばら

しさを、自然の大切さを改めて考えさせられた。山を歩き始めて10数年しか経っていないが、つくづく思うことがある。山を歩いていなかったら、木々の青さの違い、目立たない小さな山野草の力強さ、山の断面に見える川や海の跡、無意味に造られているような林道、異常に増えている鹿の害等々考えることがあっただろうかと。



山岳会の会友として科学博物館の見学に参加させていただき、改めて地球の過去と未来を考える機会となりました。駆け足の2時間でしたが、科学博物館はもっとゆっくりと何度でも訪れたい場所となりました。

(高橋琢子)

夏季恒例行事ビールパーティ懇親会

期 日：2010年8月21日（土）

場所：アパホテル&東京ベイ幕張・太陽楼47F

参加者：22名（男性17名、女性5名）

山崎完治、遠藤将一、佐藤明夫、吉永英明、岩尾富士夫、結城純一、竹島正義、小坂橋志朗、高田春男、篠崎仁、豊倉さと子、小沢けい子、鈴木美代、諏訪吉春、浜村信、芳賀孝郎、三木雄三、高橋正彦、津田麗子、吉野聰、大渡英子、長澤克治

（申し込み順）

千葉支部恒例の夏季ビールパーティが8月21日午後6時より、アパホテル&東京ベイ幕張・太陽楼47Fにて開催された。



今年は気象観測始まって以来の実に113年振りの猛暑が日本列島を襲い、正にうだるような猛暑の中でのビールパーティとなった。会場の太陽楼は47階の眼下に東京湾を望む展望の良い中華レストランで、今の日本のデフレ経済を象徴するかのごとき、

中華バイキングとお酒飲み放題で一人税込み三千円と格安でした。篠崎支部長の挨拶から始まり、芳賀顧問の乾杯の音頭で参加者一同、まずは冷たいビールで乾杯、芳賀さんは何と明日からヨーロッパに出かけるとの事で、忙しい中、参加していただき恐縮至極。値段の割には中華料理の種類も多く、まずまずでした。会員・会友の皆さんの会話も大いに弾み、今年で四回目となった夏季恒例のビール懇親会も盛会のうちに、午後8時、吉永さんの締めの挨拶でお開きとなりました。その後は、有志10数名が海浜幕張駅近くの海鮮居酒屋で二次会が開かれた事はいつもの事でした。

（諏訪吉春）

2010年度/第2回支部長会議

9月4～5日の二日間にわたり、多摩センターのパルテノン多摩において支部長会議が開催された。

4日(土) 最初に尾上会長より、いま最大の問題は会員数の減少、それにとまなう財政逼迫であること、次に公益法人改革問題であるとの認識が示された。そのためには、明日の全国支部懇談会における支部活性化会員集会での活発な討議に期待したいとの発言があった。会報『山』で募集した

事務局長については目下選考中、9月理事会で決定の予定。続いて、全30支部の活動報告。

5日(日) 本部報告および討議

・新法人制度については、2011年3月総会で決定したい。

・会員数減少 各支部10%の会員増に努力を。

・山の日制定 山岳5団体で足並みをそろえて推進する。「登山の日」ではないのだから

ら、林野関係、自然保護団体など推進団体をさらに広げる要ありとの意見が出された。
・千葉支部より、会員サービス向上のため、日本山岳協会山岳共済会への加入を提案した。

厳しい環境下、真剣な討議がなされ、また各支部の工夫を凝らした活動は、これからの千葉支部運営に参考になった。

(篠崎 仁)

日本山岳会全国支部懇談会・支部活性化会員集會に参加して

去る9月5日～6日にかけて東京多摩支部主催の第26回全国支部懇談会が京王プラザホテル多摩にて開催されました。前日4日(土)には全国支部長会議が、翌5日は午後1時から支部報編集者会議に結城委員が出席し、2時からの支部活性化会員集會に当職が出席しました。ご承知のとおり、今回、支部活性化プロジェクト委員会では全国30支部の会員から支部活性化の提言として広く意見を募集しましたが、残念ながら、提言を提出した支部は支部総数の半分にも満たない11支部に過ぎず、冒頭の挨拶で、神崎副会長からは日本山岳会の抱える危機に対し会員一人一人の意識の低さを嘆く言葉となりました。

当千葉支部では3名の委員からの出された提言を7月の委員会において当職が要約して千葉支部の提言として支部活性化プロジェクト本部へ提出し、当日の会議では千葉支部も含めて8支部が提言を発表する事となりました。以下、少し長くなりますが、本紙面を借りて要約した内容を紹介します。

【支部活性化への提言】

千葉支部は、2007年6月に設立され今年で4年目を迎えた。会員および会友は120名となった。支部委員(役員)は支部長以下18名で毎月1回委員会を開催し支部の運営にあたっている。昨年度の主要な行事

は、一般山行5回、講演会3回、懇談会2回(千葉・栃木・茨城の三支部合同懇談会を含む)、自然観察会1回、房総半島分水嶺踏破5回等行事の実施回数は16回、延べ参加人数は402名である。しかし、会員・会友の高齢化は進み、会友は徐々に増加するも会員は若干であるが減少している。

まず、活性化の定義であるが、どのような状況が活性化されているといえるのだろうか。日本山岳会は登山と言う趣味のクラブであり、クラブ活動の活性化とは、「多くの会員が集まり、会の諸々の行事に自由に参加し、クラブライフを楽しんでいる」このような状況を活性化しているといえるであろう

1. 現状認識

千葉支部は現在次のような問題点を抱えており、必ずしも活性化されているとはいえない。

①各種行事、とりわけ、山行の参加メンバーが固定化しており、新規の会員・会友の参加が少ない。

②支部会員の支部運営に対する参加意識が低い。

③支部会員同士の横のつながりがうすい。その原因として以下のような諸点が考えられる。

イ. 魅力ある行事の企画(山行、研究会、自然保護活動、懇談会等)を会員に提供出

来ているか。 ・会員が高齢化していることから安全第一のハイキングが主体となり、日本山岳会のアルピニズム精神とはかけ離れた山行になっていないか。 ・多くの会員が保有する登山文化に関する多彩な経歴を考慮したうえで、会員を満足させる多様なジャンルの企画を提供しているか。

ロ. 新規の会員・会友に対して会の行事への積極的な参加を呼び掛けているか。

・年4回発行の会報を通して各種行事の参加を呼び掛けているが、消極的な「待ちの姿勢」となっていないか。

ハ. 支部の運営を司る定例の委員会自体が、自由で開かれた雰囲気の下に活発な討議・提案がされているであろうか。役員一人一人が支部活動の活性化に向けた真剣な努力を傾注しているであろうか。マンネリ化と自己満足に陥り、ともすれば仲間内での閉ざされた体制となっていないか。

2. 活性化のための方策

(1)会員のニーズをあらためて把握する。そのためのアンケート、意見交換会の実施。

(登山の多様性:山には多様な魅力があり、登り方も、縦走、ピークハンター、岩・沢登り、また山岳写真の撮影、花・野鳥を楽しむフィールドとしての山登り、さらには登山文化探求のための対象としての山など実に様々である。レベルの高い山行を望む会員もいれば、日本山岳会という伝統ある組織の一員として静かに山岳サロンの場を昔からの仲間と共有したい会員もいる。)

(2)それらのニーズに応える企画、活動

①山行

- a 誰でも参加できる安全で楽しい山行
- b 海外登山 単なるツア山行とはひと味違った千葉支部らしい企画(現地交流など)
- c JACらしいアルピニズムの登山

② 集会、懇談会

会員同士の親睦、交流の場を増やす。

a 沿線在住会員の懇談会

南北・東西に広い千葉を沿線別に3～4ブロックに分け、会員の横の連携を図る。各ブロックに地区担当責任者を置き、沿線在住会員の懇談会等の実施を呼掛けていく。

b 年4回発行の会報に短信欄を設け、今まで支部行事に参加していない会員・会友を中心に紹介を兼ねた個人山行・山岳文化のエッセイ等を募集する。会員・会友の連帯感を醸成する。

c 山行以外に、今まで支部行事として実施してきた山岳文化に関する支部活動を、より多様に系統的に展開していく。会員・会友がおのおの山岳文化の得意な分野でリーダーとなり、懇談会、小サロンなどで豊かなクラブライフを図る。

d 会員増強 毎年会員・会友の増強運動を実施し組織の拡大を図ることにより、多彩な経歴を持つ人材を集める。今後の組織の衰退を防止し存続を目指す。

e 公益活動の実施

以上
(諏訪吉春)

支部報編集担当者会議に参加して

今回初めて、全国支部懇談会に併せて支部報編集者担当会議がありました。毎回送られてくる他支部の会報担当者と話ができ、支部報の活性化と期待して参加したのですが、会議が1時間で各支部の発行部数や財源とかの報告だけで貴重な1時間を使ってしまい、私的にはがっかりしました。

最終的には、他支部の会報にも投稿できるように支部報担当者同士の連絡をとる、また本部の会報「山」にも支部会報と連絡を、という結論で終わりました。

でも、最後に信濃支部や東海支部の方から、支部報をまとめて本にして会員に配布したと報告がありました。

支部報とは、その時代の記録であり、支部の歴史であると言われた時、自分が作っている会報が後々に貴重な千葉支部の財産にな

る事だと感じ考えさせられました。

日本山岳会100年の歴史は、その時代の先輩方の記録が、今ある日本山岳会の歴史と伝統だと感じました。

私も全支部会員の入会の動機は判りませんが、日本山岳会に魅力があり私も俺もと言う思いで入会されたと考えています。今の私達が歴史を作っている事を認識して、後輩や子供・孫達に山の素晴らしき事を伝え、次世代に受け継ぐ事が、今の私達のやるべきことではないかと感じました。

支部報を発行するという立場からは、報告し伝える事しか言えないのですが、今の千葉支部会員が全員参加して日本山岳会千葉支部の歴史を作っていくことが重要だと考えさせられる会議でした。

(結城純一)

たくさんの女の子

「ブー」と刷りだし始めを知らせるブザーが鳴り、「ゲーンゲーン」と回転速度を上げていく輪転機の音が印刷工場から編集局に聞こえてきた。「お疲れさま」。夜勤が終わって局員たちが帰っていく。いつものくせで深夜の天気予報を見る。「晴だ。行くか」。夜勤の疲れが吹き飛んだ。

JR 高尾で下車。八王子の城跡から北高尾山稜を歩いた。杉沢の頭、景信山への分岐を過ぎて西へ西へと歩く。三本松山、関場峠、堂所山まで来た。腕時計はまだ午後1時。このまま陣馬山へ行っても、もったいない。馬蹄形に折り返し、景信山から城山、高尾山まで来た。

「ヘーッ、すごいや」。ミシュランの「三

つ星」効果なのか、高尾山が人気とは聞いていたが、まるで「銀座」だ。聞けば年間の登山者は250万人だという。「世界1の山」を実感した。しかし、もっと驚いたことに、女の子がたくさんいたことだ。それもカラフルなタイツに巻きスカート。新しい登山靴にぴかぴかのリュックサックザック。どこかのスポーツ店に陳列してあるマネキンの姿そのままなのだ。

同じ高尾山城でも、ついさっきまでは女の子の「お」の字もない。そういえば、去年の夏、富士山五合目で女の子たちを見かけたが、ほかの山では見たこともない。「いないなあー」。なんでだろうと考えた。

「なんでだろう」。駅前で缶ビールを2本

買い、つまみの柿の種を口にほうばって、
プチュとタブを開けると流し込んだ。かけ
つけ3倍ではないが、実にうまい。発車時
間が近づいた。「あれれ」。女の子たちが乗
ってきた。「俺の娘ぐらいかなあ、もっと若
いな」と、年甲斐もなくきよろきよろ。彼
女たちの楽しそうな声が響いた。

しかし「なんでだろう」。学生山岳部の灯

が消えかけて久しい。大学山岳部は消滅状
態だ。彼女たちが、ほかの山にも来てくれ
れば、かつてのように山に若者たちがもど
ってくる、ふとそう思った。しかし、それ
には「どうするか」。それが課題だなあ。ガ
クンと揺れて、気がつくど、電車はとっく
に走り出していた。

(三木 雄三)

千葉国体・山岳競技のご案内

10月2日より千葉国体・山岳競技が開催されます。リード競技とボルダリング競技の2種目に分か
れスリリングな熱闘が展開されます。千葉県山岳連盟が運営に携わっています。

ぜひご観戦ください。

日 程:10月2日(土)~4日(月)9:00 開始

場 所:印西市松山下公園印西市総合体育館

チバニュータウン中央駅または JR木下駅よりシャトルバスあり。

*詳細は「ゆめ半島千葉国体印西市実行委員会」ホームページ参照。

または下記に問合せください。

千葉国体印西市実行委員会事務局

「登山の医学」講演会のご案内

安全で楽しい登山のために必要な医学知識について、増山茂先生にやさしく説明し
ていただきます。今回は千葉支部公益活動の一環として、千葉市教育委員会の後援を
受け、広く一般登山者にも参加を呼びかけています。友人、知人もお誘いの上、参加
ください。

日時:2010年10月24日(日)14時~15時30分

会場:京葉銀行文化プラザ6階「樺」千葉市中央区富士見1-3-2 Tel043-202-0800

講師:増山 茂先生

演題:「楽しい登山に落とし穴は?」

講師略歴 東京医科大学渡航者医療センター・前了徳寺大学学長。高山病をはじめ
とした高所医学全般に詳しい。ネパール・ヒマラヤ、チベット、天山山脈、カラコル
ム、パミール、アンデス、バフィン島などで調査・研究を行なうほか、登山者として
も幅広く山を楽しんでいる。

著書『登山の救急医療ハンドブック』(山と溪谷社)『登山医学入門』(山と溪谷社)
申込不要、但し先着260名限定 問合せ先:津田麗子

忘年山行・弘法山と鶴巻温泉



弘法山公園（ソメイヨシノ）

丹沢山塊と相模野の境にある小さな山をミニ縦走し、名湯の誉れ高い鶴巻温泉で1年のアカを洗い流しましょう。サクラで有名な山ですが、天気恵まれれば富士山が歓迎してくれます。明るく開けた雑木の尾根が続いて気持ちがよく、丹沢主脈の展望も楽しみです。北側には相模平野に聳えるすっきりしたピラミッドの大山が、ことのほか大きく見えます。どちらかといえば「家族連れ」で安心して歩ける山なので、誘い合ってご参加下さい。童心に戻って「箱庭」の風景を楽しんだ後は、大人のお楽しみです。

登山場所	丹沢・弘法山
日 時	2010年12月12日（日）
交 通	小田急線秦野駅改札口に午前10時集合
募集人数	制限なし
申し込み	三木 雄三

東京駅で恒例の反省会も企画しています

アルパインスケッチクラブ 2010 年次晩餐会展出品のご案内

アルパインスケッチクラブより、創立 20 周年を記念してクラブメンバー以外の出展依頼が届きました。ぜひ応募ください。

なお詳細案内は J A C ホームページに記載、またはクラブの担当あて直接照会ください。

開催場所：2010 年 12 月 4 日晩餐会会場

作品：山の自然をテーマにした絵画（画材は自由）

大きさ：10 号まで

申込締切：10 月末日

申込先：スケッチクラブ展担当

田中正雄氏

お知らせ

★副支部長選任 藤井正善氏海外移住により空席だった副支部長に、諏訪吉春氏が選任されました。事務局長兼務。

★協力委員募集

千葉支部委員会は、監事・顧問を含め現在 18 人の委員により運営されています。ほかにもっと自由な形で委員会の運営に携わってもらい協力委員制度があります。現在、後藤三男さん、山崎完治さんの 2 名に協力いただいております。

委員会には、総務、会計、山行、支部報編集、ホームページ作成、岳連関係、集会などの担当があります。お時間の許す範囲でお手伝いいただける協力委員を募集いたしております。

ぜひご協力をお願いします。表紙タイトル横の事務局長宛ご連絡ください。また支部委員会は毎月第 4 火曜日に開催しております。こちらも気楽にのぞいてください。

★お詫び

支部だより「11号」のザゼンソウの小倉山で、参加者に会友の井上元さん、京さんのお 2 人の名前が脱落していました。お詫びします。

● 編集後記

この夏は異常な猛暑日が続きましたが、朝方は涼しさを感じるようになり、秋が近づいているんだと感じるようになりました。秋を表現する言葉としては、実りの秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、天高く馬肥ゆる秋、等がありますが、年齢を重ねるにつれ、読書、スポーツ方面から食欲方面に気持ち移ってきているのは、きっと、私だけではないはず
(結城純一)